

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	大分県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	大分県中津市立東中津中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	1	10	22
生徒数	120	96	97	2	315	

研究の概要

1、研究主題

<p>自ら学ぼうとする生徒の育成 ～基礎・基本の確実な定着を図る学習指導のあり方～</p>

2、研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p>全学年の国語・社会・数学・理科・英語で取り組む。(国語・数学・英語を中心に) 学力の判定基準が他の教科に比べわかりやすいので。</p>
--

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 基礎・基本の確実な定着を図る学習指導のあり方 研究の見通し</p>		
	月	項目	研究実践の内容
	7	職員研修 学年研修	・授業研(3年部) ・「学習・生活」についてのアンケート
	8	職員研修(全体会) 教科部会	・各教科での指導法の工夫研究 ・到達度問題の作成 ・個人カルテの整理 ・先進校視察
	9	職員研修(全体会)	・東中タイムの分析 ・教科部会
	10	職員研修(全体会) 教科部会	・人権教育について ・教科部会指導法の工夫研究
11	職員研修(全体会) 学年部会	・授業研(1年部) ・先進校視察	

1 2	職員研修(全体会) 教科部会	・教科部会指導法の工夫研究 ・進路学習について ・「学習・生活」についてのアンケート
1	職員研修(全体会) 学年部会	・東中タイムの分析 ・個人カルテの整理 ・「学習・生活」についてのアンケート分析 ・授業研(2年部)
2	職員研修(全体会) 教科部会	・到達度問題整理 ・教科ごとのまとめ
3	職員研修(全体会) 学年部会	・校内研究の中間まとめ

研究の内容

(1) 東中タイム(「総合的学習の時間」のうち週1時間)の取り組みのなかで基礎学力をつける

<実施方法>

国語・数学・英語の三教科を中心に実施する

(社会、理科も必要のある場合はとり入れる)

実施計画は各学年でたてる。

実施内容・方法は教科部会で作成する

<実施上の留意点>

担任副担任が協力して取り組む

国語・数学・英語の教科担任がいない学年は実施方法の説明をうけておく

プリント類の印刷等については各学年で行う

生徒一人ひとりに東中タイム用のファイルを準備する

毎回の学習記録をとっておく、生徒は記録用紙に残しておく。記録用紙は各教科で準備する

(2) 授業改善につながる指導方法や指導体制の工夫をするなかで学ぼうとする力をつける

少人数学級。TT指導のあり方を研究する

基礎・基本到達度問題の作成・分析を行う

個人カルテ(国・数・英)を作成し指導に役立てる

(3) 家庭での生活と学習との関連について調べる

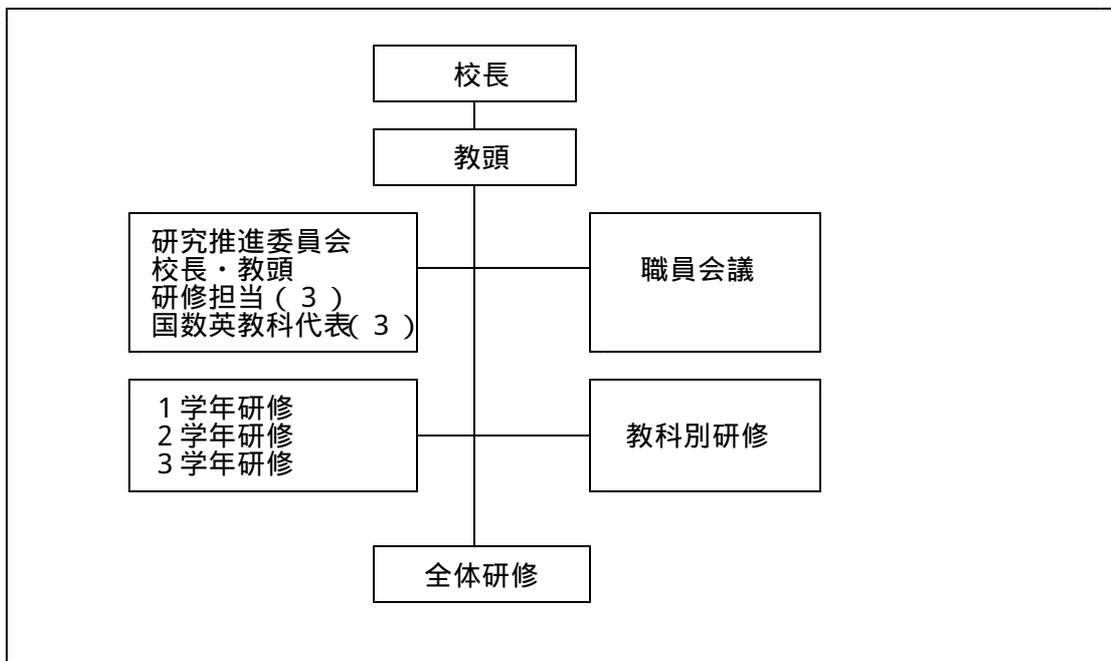
平成 16 年度	テーマ 基礎・基本の確実な定着を図る学習指導のあり方 研究の見通し		
	月	項目	研究実践の内容
	4	職員研修 職員研修	研究推進委員会 職員研修(全体会)
	5	学年研修 職員研修	研究推進委員会 職員研修(全体会)
6	職員研修 職員研修	研究推進委員会 職員研修(全体会)	

7	職員研修 学年研修	・授業研 ・「学習・生活」についてのアンケート
8	職員研修(全体会) 教科部会	・各教科での指導法の工夫研究 ・到達度問題の作成 ・個人カルテの整理 ・先進校視察
9	職員研修(全体会)	・東中タイムの分析 ・教科部会
10	職員研修(全体会) 教科部会	・人権教育について ・教科部会指導法の工夫研究 ・公開研究発表会
11	職員研修(全体会) 学年部会	・まとめ ・まとめ
12	職員研修(全体会) 教科部会	・「学習・生活」についてのアンケート
1	職員研修(全体会) 学年部会	・東中タイムの分析 ・個人カルテの整理 ・授業研
2	職員研修(全体会) 教科部会	・到達度問題整理 ・教科ごとのまとめ
3	職員研修(全体会) 学年部会	・校内研究のまとめ

研究の内容

上記平成15年度と同じ内容

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1、研究の成果

学期末に実施した教科別アンケートにより各教科での興味関心度、理解度を見ていった結果が次のデータである。（別紙添付書類）

2、今後の課題

少人数実施、T、T指導のあり方を更に研究していく（単元ごとの指導計画の作成など）
到達度診断問題を作成し、充実させる。
個人カルテを更に指導に役立てていく。
家庭での生活について保護者と話し合う機会をもち、家庭学習習慣について考える。
以上の課題について来年度取り組んでいきたい。

学力把握のための学校としての取り組み

ア、国、数、英、単元ごとの到達度診断を実施、カルテに記入分析をする。
イ、学期末に教科ごとのアンケートを実施。（9、（1）のように）
ウ、数学の少人数学級についてのアンケート。
以上のア、イ、ウ、について取り組んでいく

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

平成16年度10月下旬に公開研究発表会を予定

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校

【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上

【指導体制】 少人数指導 T、Tによる指導
 その他

【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無